


インド		国 の 概 要	首都	ニューデリー
 <p>中央の糸車のような紋章はチャクラといって、3世紀のインドの神殿にある飾り物、24の車軸は一日の時間を表し、オレンジ色はヒンズー教、緑はイスラム教白は平和を表している。</p> <p>独立：1947/8/15 国連加盟：1945/10/30 政体：連邦共和制</p>	国土		面積 328万7,000km ² （日本の8.4倍） ヒマラヤ山岳地帯、ヒンドスタン平原、インド半島の3大地域に大別される。ヒマラヤ・カラコルム山脈はインド全体を他のアジアから遮断する形でそびえ、平均高度は6,600mもある。ヒンドスタン平原は、インダス川・ガンジス川によって作られた大沖積平野である。インド半島は東西のガーツ山脈が走り、大部分をデカン高原が占めている。	
	人口		11億0340万人	
	言語		ヒンディー語（連邦公用語）、英語など憲法公認語17	
	通貨		ルピー	
	気候		山岳地帯は高山気候、ガンジス川中上流は温帯、西部のパキスタン国境地帯は乾燥気候、沿岸部とデカン高原は熱帯サバナ気候である。モンスーンの影響が強く、冬季には北東風、夏季にはインド洋から吹き込む南西風が卓越する。この南西風の影響で西海岸やヒマラヤ山麓は多量の降雨がある。特にアッサム地方は世界最多雨地の一つである。	
	民族		インド・アーリア系72%、ドラビダ系25%	
	宗教		ヒンズー教80%、イスラム教14%、キリスト教3%、シーク教2%、仏教1%、ジャイナ教	
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・就学年数は州により少しずつ違うが、基本的には、小学校5年（6～10歳）、中学校が3年（6～8年生）、中等学校2年（9～10年生）、上級中等学校（11～12年生）、となっている。 ・上級中等学校では、科学系、商業系、人文系に分かれて学習する。 ・中央政府が教育についての立法権を持つが、財政を担うのは州政府、学校の運営にあたるのは州教育省、地域の教育委員会となっている。 ・幼・小・中・高の一貫教育を行う私立学校が多く、大半の子どもたちはそこに通い、高等教育を受けることを望んでいる。 		

義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校の8年間である。 ・多くの州では特に義務ということではなく、5歳になったら就学する。 ・途中で学校をやめてしまう子どもが多く、5年生になるまでに約40%もの子どもが学校に行けなくなってしまう。家庭が貧しいために、弟妹の世話や仕事の手伝いをしなければ生活していけないからである。
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度はほとんどが4月～翌年の3月だが、1月～12月とする州もある。 ・3学期制を採っており、1学期は4月～8月、2学期は9月～12月、3学期は1月～3月である。 ・私立学校（パブリックスクール）と公立学校（ガバメントスクール）があり、後者は校舎が不足しており午前・午後の2部制をとっているところが多い。 ・パブリックスクールでは英語による授業を行っているが、ガバメントスクールではヒンディー語で授業が行われている。 ・1部の私立学校を除き、週6日制がとられ、年間授業日数は約200日である。 ・教育課程は原則として州の教育局が責任を負っているが国立教育研究・教員養成所は「全国共通カリキュラム」を開発し、各州の参考に供している。普通教育を中心とし、母語、算数、理科と社会科を統合した環境、表現（芸術）、保健衛生及び作業経験が主な教科である。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中等学校2年生及び上級中等学校2年生の段階で全国共通テストが行われ、このテストはその後の進路決定に大きな影響がある。 ・高等教育を受けるには、そのための試験や入学後の授業が英語であることから、私立に入らないと事実上困難である。 ・大学の授業は英語で行われる。大学進学率は約30%で、女子の進学も多く、医者や弁護士などで、女性が占める割合が多くなっている。 ・大学で人気がある分野はコンピュータサイエンスやバイオ、ビジネスマネジメント、物理・数学などで、海外に留学する学生も多い。主な留学先はアメリカとオーストラリアである。

	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳からが対象であるが、義務ではなく、通っている子どもはわずかである。公立幼稚園はなく、私立幼稚園のみである。 ・ヒンディー語、英語、数学（足し算、引き算、掛け算）を教えている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・スラム地区や地方では就学しない児童もいる。このような地区には、学校をつくり、教師が家庭訪問をして学校に来るように働きかけている。子どもたちには制服・かばん・学用品・お昼のおやつを政府が支給している。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・天候によって変わるが、冬休みは11月～2月末で、夏休みは、6月～7月末の中で、10日間と15日間の2回ある。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の5年間は、学級担任が全教科を担当する。ミドルスクールに入ると学級担任と教科担任が別れて担当する。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生から進級テストがあり、不合格の場合は落第となる。 ・飛び級することもできる。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・7,8年生はすべての生徒が英語、数学、科学（物理、化学、生物）、社会（歴史、地理、公民）、ヒンディー語、さらに第3言語としてサンスクリット語、フランス語、ドイツ語からひとつを選んで学習する。コンピュータ・サイエンスも必修となっている。 ・数学に力が入れられ、掛け算九九ではなく、20×20まで暗記する。 ・全教科の宿題が毎日出る。 ・体育の授業はない。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会はない。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバメントスクールでは、昼食を持参するところとスナックが出るところがある。 ・パブリックスクールでは、売店でスナックを売っていたり、カフェテリアがあり、食べ物を自由に買うことができる。
	チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と同じようにある。
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラスの人数が50人以上なので、一斉指導で、机間指導は無理だが、子どもたちの学習意欲は非常に高い。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・男子の髪は短く、女子は特に無いが、化粧は禁止されている。

		・携帯電話の学校への持ち込みは禁止になっている。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・1年に1回、授業参観がある。 ・保護者会やPTAはない。
	子どもの一日	・金曜日または土曜日が半日である。 ・学校は10時から16時までで、帰宅してからは、宿題や家の手伝いをする。
	その他	・教科書に、英語で「誓約」が載っている。
生活習慣等	宗教上の忌避事項	・イスラム教、ヒンズー教など食生活の違いがあり、給食のメニューが難しい。そのため、給食のある学校は野菜中心のメニューで、肉料理は出ない。
	指による数え方 計算方法等の違い	・指の関節で数える。(1~14まで)
	食生活	・カレーとは料理の名前ではなく、おかず、具などの意味をもち、ほとんど毎日食べられている。
	その他	・日本のビデオゲームやエレクトロニクス関係のテクノロジー、美しい自然、寿司などの食べ物に対する関心が高い。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
- ・社会科副読本・・・・・・・・・・・・・・・・ボンベイ日本人学校
- ・海外日本人学校勤務経験教員より
- ・留学生より